

施設名称：大阪府立弥生文化博物館	指定管理者：大阪府文化財センター・近鉄ビルサービスグループ	指定期間：平成 29 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日	所管課：大阪府教育庁 文化財保護課
------------------	-------------------------------	--------------------------------------	-------------------

評価項目	評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価 （11 月記入）		施設所管課の評価 （12 月記入）			評価委員会の指摘・提言	
		評価 S～C	評価 S～C	H29 評価	H30 評価	評価 S～C		
一 提案の履行状況に関する項目 (1)施設の設置目的 および管理運営方針	◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営がなされているか ○資料の収集・整理・保管と活用 ○歴史、文化等に関する教育への寄与 ○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館と一体となった事業の実施 ・事業実施 4 回 ○大阪の魅力の発信 ・大阪府の遺跡を紹介するスポット展示の開催 1 回	○資料の収集、整理、保管、展示 重要資料は、特別収蔵庫においてモニター監視のもとに温度 20～24 度、湿度 50～60%を維持する適切な温湿度管理に努め、厳重に保守管理を行った。 新規寄贈・購入図書等（計 1,107 冊）は、データベースに入力し、調査研究の資料として活用した。 ○歴史、文化に関する教育への寄与 学校教育との緊密な連携（校外学習、出前授業等）により、学芸員や教育専門員等が具体的な素材を用いてわかりやすく解説することで、社会教育施設である博物館の歴史学習の場としての役割を果たし、歴史・文化等に関する教育の充実に寄与した。 ○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館と一体となった事業の実施 ・事業実施 3 回 史跡公園で開催された「JAいずみの農業まつり」「音☆楽市」、学習館で開催された「ふれあいまつり」において、土器・銅鐸パズルのワークショップを実施した。 ○大阪の魅力の発信 ・スポット展示の開催 1 回（1 月予定） スポット展示を 1 月以降に開催予定。最新の発掘調査成果を紹介することによって、大阪の魅力を発信する。また、弥生プラザ展示「やってきた人・持ってきた土器!？」「古墳時代の池上曽根遺跡」も開催した。 29 年度の文化庁補助事業において制作した「はくふだ」の配付を継続し、泉州の 8 つの博物館施設の認知と利用を促進した。	A	○資料の収集・整理・保管と活用 実物資料の適切な管理・活用等が行われているほか、関係機関等からの多数の寄贈図書についても適切に管理されている。 ○歴史、文化等に関する教育への寄与 学校等の受け入れ（評価基準 130 回に対し 105 回実施）や出前授業（評価基準 60 回に対し 154 回実施）による学校教育への寄与に加え、漫画やアニメ、情報技術を活用した解説等、小・中学生が楽しく学べる事業が実施されており、計画を上回る実施状況である。 ○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館と一体となった事業の実施 評価基準を満たす見込みである。 ○大阪の魅力の発信 スポット展示に加え、弥生プラザ展示も開催されており、評価基準を満たしている。	A	S	A	

	<p>○府民との協働、活動の場の提供</p> <p>○大学・企業・NPO法人等との協働</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信</p> <p>○グループ化による効率的・効果的事業の実施</p> <p>○連携による効率的・効果的な展示企画</p>	<p>○府民との協働、活動の場の提供 エントランスホールで実施するミュージアムコンサートの出演者、ミニギャラリーの出展者を募集し、府民の活動の場としての利用を促進した。 夏休み市民学芸員講座を開講し、博物館や学芸員を知るための講義や体験実習を行った。修了者には市民学芸員認定証を交付し、月に一回程度、市民学芸員の日として、活動と集いの場を設けた。</p> <p>○大学・企業・NPO法人との協働 「夏休みフェスタ！」及び「関西文化の日」において、奈良大学、日本電気計器検定所、(株)羅工房等の協力により多彩なワークショップを実施した。また、NPO「はにコット」と連携し、相互のワークショップイベントに出展した。今後引き続き、2月の「冬のやよいミュージアム」、3月の「弥生フェスティバル」として、同様のワークショップイベントを開催する予定。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信 夏季特別展「白兔のクニへ」及び秋季特別展「北陸の弥生世界」において最新の成果を発信するとともに、図録・リーフレットを発行した。</p> <p>○グループ化による効率的・効果的事業の実施 博物館の具体的事業運営は大阪府文化財センター、施設管理は近鉄ビルサービスと分担し、両者の専門性に即した業務を実施した。また、近鉄グループのネットワークを活用し、あべのハルカス等において、講演会、ワークショップ等の事業を実施した。</p> <p>○連携による効率的・効果的な企画展示 ミュージアムギャラリー「創作展いずみ」を和泉市文化協会との共同主催事業として開催し、夏季特別展「白兔のクニへ」を鳥取県埋蔵文化財センターの特別協力を得て開催した。ま</p>	<p>○府民との協働、活動の場の提供 ミュージアムコンサート、ミニギャラリーにより府民に活動の場が提供されている。また、今年度新たに市民学芸員という活動の場の提供も行われており、計画を上回る実施状況である。</p> <p>○大学・企業・NPO法人との協働 大学・企業・NPO法人等との協働事業が館の内外で実施されている。また、(株)羅工房等、積極的に新規の連携先を開拓していることから、計画を上回る実施状況である。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信 展示や図録等により、近年の新たな発見等が織り込まれた調査研究成果が発信されている。</p> <p>○グループ化による効率的・効果的事業の実施 具体的事業については大阪府文化財センターが担いつつ、施設の補修等については近鉄ビルサービスが対応を行うなど、両者それぞれの専門性を活かしつつ必要に応じて協働することを通じて効果的な管理運営が行われている。また、あべのハルカスでの講演会等、近鉄グループ企業のネットワークを活用した事業が行われている。</p> <p>○連携による効率的・効果的な企画展示 他館等と連携した展示事業が館の内外で実施されている。</p>			
--	--	--	--	--	--	--

		<p>た、大阪府立中央図書館と連携し、館外展示を実施した。</p> <p>◎自己評価 弥生時代と現在を繋ぐ博物館として、小中学校との連携、隣接関連施設での催しへの出展、弥生プラザ及びスポット展示（予定）の開催、ミュージアムコンサート、ミニギャラリーにおける府民との協働、大学及び各団体との協力による連携企画の実施等を通じて、最新の弥生時代研究の発信を、府民をはじめとした利用者に対して積極的に行うことができた。</p>		<p>◎施設の設置目的および管理運営方針にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、教育への寄与、府民との協働・活動の場の提供、大学・企業・NPO法人等との協働では計画を上回る実施状況であり、館の設置目的に沿った運営がなされている。</p>				
(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	<p>◇公平なサービス提供と対応、障がい者・高齢者への配慮がなされているか ○高齢者、障がい者等への利用援助</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実</p>	<p>○高齢者、障がい者等への利用援助 9月の敬老の日においては、65歳以上の入館料を無料として利用促進を図った（入館者数12人）。また来館された高齢者に対してはより積極的な声掛けを実施し、初めての方にも安心して博物館を利用してもらえる一日とした。 障がい者が参加できるワークショップ「土器銅鐸パズル」等を実施したほか、障がい者就職支援施設の入所者を対象にアート勾玉WSを実施した。ミュージアムコンサートに際しては、視覚障がい者への音声コード付コンサートプログラムを準備した。</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説 館キャラ「カイト」と「リュウさん」による弥生時代を解説する「4コママンガ」と「弥生博アニメ」をホームページ及び館内のデジタルサイネージに掲載した。また、VRブースにおいて、遺跡VRによる遺跡情報を提供した。その他、ICタグをかざすだけの簡便なアクセス方法を利用した展示巡回システムによる、ゲーム感覚で学べるコンテンツの提供を継続した。</p> <p>◎自己評価 高齢者、障がい者等への利用援助に努めるとともに、楽しく学習してもらうため、最新のデジタル機器を活用する等のさまざまな工夫によって、子どもたちに、弥生時代についての幅広い知識を伝えることができた。</p>	A	<p>○高齢者、障がい者等への利用援助 高齢者や障がい者への援助や、利用促進を図る事業が実施されている。</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実 漫画、アニメ、情報技術の活用等により子どもにもわかりやすい解説の充実がなされている。</p> <p>◎平等な利用を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、障がい者を対象とした事業、子どもにもわかりやすいよう工夫をこらした多様な事業が実施されている。</p>	S	S	A	

<p>(3)利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇利用者増加のための工夫がなされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 4 回 ○「木曜大学」講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加者数 150 名／回 ○他地域・他館との連携 ○学校教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・学校等の受入回数 130 回 ・出前授業（小・中学校）の実施 60 回 ・「子ども一日館長」の任命 1 回 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムギャラリー、夏季特別展、秋季特別展、冬季企画展 4 回（うち 1 回は 1 月から開催予定） ミュージアムギャラリー「創作展いずみ」（開催日数 150 日、入館者 9,125 名）、夏季特別展「白兔のクニへー発掘された因幡のあけぼのー」（開催日数 66 日、入館者 10,606 名）を開催、秋季特別展「北陸の弥生世界 わざとこころ」を開催中。1 月から冬季企画展「はくふだでめぐる泉州の歴史と文化」を開催予定。 ○「木曜大学」講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加者数 171 名／回（実施回数 12 回） 平日の事業として、連続講座「木曜大学」を開催。今年は「ピックアップ、弥生の前／古墳の後」をテーマに、旧石器時代から縄文時代と、奈良時代から近世までの遺跡に焦点をあて、名誉館長、館長、副館長が講義を行った。さらに今年度は、「木曜大学 大学院」として、館長講座 4 講を追加実施する予定。 ○他地域・他館との連携推進 <ul style="list-style-type: none"> 夏季特別展では鳥取、秋季特別展では北陸地方の各館と連携した。冬季企画展では泉州地域の各館と連携する予定。 ○学校教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・学校等の受入回数 105 回 小学生、中学生の校外学習を積極的に受け入れ、高校生の課題研究、研究旅行等にも対応した。また、小中高校教諭を対象に、博学連携セミナーを開催し、展示解説、出前授業の体験等を実施するとともに、連携について意見交換を行った。この他、中学生の職場体験を受け入れ、幼稚園・保育園に対しても、紙芝居、竪穴住居の疑似発掘・復元体験等の学習体験を実施した。 ・出前授業実施 154 回 2,700 人 府内の小学校、放課後教室等からの要請を受け、出前授業を実施した。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <ul style="list-style-type: none"> 冬季企画展の開催により評価基準を満たす見込みである。 ○「木曜大学」講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> 評価基準を満たす見込みである。また、追加講座「木曜大学 大学院」の実施も予定されている。 ○他地域・他館との連携 <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度に作成した「はくふだ」も効果的に活用しながら、他地域・他館との連携により多様な事業が実施されている。 ○学校教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・学校等の受け入れ回数 進捗状況は 81%であり、評価基準を満たす見込みである。 ・出前授業の実施 進捗状況は 257%であり、既に評価基準を大きく超えている。 	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
--------------------------------	---	---	---	----------	----------	----------

	<p>○「出かける博物館」事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館外における出張講座等 19 回 <p>○「府民が参加する博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムコンサートの実施 16 回 ・ミニギャラリーの実施 4 回 <p>◇利用者数</p> <p>○入館者数及び館外利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者 50,000 人 ・館外利用者 20,000 人 <p>【参考】平成 30 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数 52,401 人 ・館外利用者 17,196 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども一日館長」の任命 1 回（予定） 地元小学校の協力を得て、3 月に実施を予定している。 <p>○「出かける博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館外における出張講座等 28 回 大学、博物館、関係団体からの要望により、出張講座を 8 回行った。加えて関係団体と連携し、館外において「土器・銅鐸パズル」「勾玉消しごむをつくろう！」「銅鐸風鈴づくり」「銅鐸せっけんをつくろう！」などの各種ワークショップを 20 回実施した。 <p>○「府民が参加する博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムコンサート 18 回（うち 8 回は予定） さまざまなジャンルのミュージシャンたちによるコンサートを開催。9 月には、夕方開催のトワイライトコンサートを、開館時間を延長して実施した。 ・ミニギャラリー実施 4 回（うち 1 回は予定） エントランスホールにおいて「絵画コンテスト優秀作品展」「時代を超えて 平成・令和の世界遺産 三田崇博写真展」「一日一絵」を実施した。今後 1 月に「帰納的標本」展を予定している。 <p>○入館者数及び館外利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 31,381 人 進捗率 62.7% 9 月迄はほぼ昨年並みの入館者数であったが、10 月、2 度にわたって台風が接近し、臨時休館するなどの影響があったこと、今年度から 11 月の和泉市商工まつりが中止となり入館無料の日の入館者が大幅に減少したこと等の理由によって、入館者数は目標を下回っている。 ・館外利用者 14,080 人 進捗率 70.4% 小学校への出前授業を中心に、学芸員による出張講座、ワークショップ等を実施し、ほぼ昨年並みの参加者を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども一日館長」の任命 評価基準を満たす見込みである。 <p>○「出かける博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館外における出張講座等 進捗状況は 147%であり、既に評価基準を超えている。 <p>○「府民が参加する博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムコンサートの実施 評価基準を超える見込みである。 ・ミニギャラリーの実施 評価基準を満たす見込みである。 <p>○入館者数及び館外利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 評価基準に満たない可能性がある。 ・館外利用者数 評価基準を満たす見込みである。 				
--	--	---	---	--	--	--	--

	<p>◇利用者満足度調査</p> <p>○利用者満足度調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」の割合 90% 	<p>○利用者満足度調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」の割合 95.1% <p>(ミュージアムギャラリーと夏季特別展における調査結果の平均。回答人数 185 人、回答率 0.9%)</p> <p>◎自己評価</p> <p>ミュージアムギャラリーでは、和泉市文化協会美術部門会員の作品を、夏季特別展では、主に鳥取県東部地域（因幡）の発掘調査資料を、秋季特別展では、石川県小松市の八日市地方遺跡の木器資料を中心に展示し、好評を得た。ミュージアムギャラリーは地元和泉市文化協会との共同主催事業として開催し、夏季特別展は鳥取県埋蔵文化財センターの特別協力を得て、さらに展示内容を充実させた。利用者増加のための工夫については、それぞれの目標数値を達成しつつある。利用者数は、秋の入館無料の日の入館者数が減少したことにより目標を下回る状況である。</p> <p>一方、利用者満足度調査の結果は、満足+やや満足の指標では、ミュージアムギャラリー、夏季特別展ともに、目標を上回っている。また、館外の出張講座も既に目標を上回っている。館外での各種ワークショップについても、積極的にすすめた結果、実施回数はほぼ昨年同様の 20 回を数えた。</p> <p>よって、本項目に対する達成状況はおおむね良好である。</p>					
<p>(4)サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇サービスの向上が図られているか</p> <p>○イベントと連携した入館料無料日の実施</p> <p>○ホームページの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新回数 24 回 	<p>○イベントと連携した入館料無料の日の実施</p> <p>「関西文化の日」と連携して入館無料の日とし、多彩なワークショップを実施するなどして府民の利用を促進した(2日、入館者数 751 人)。夏休みには、子ども向けに「夏休みフェスタ！」を開催し、同じく入館無料の日とした(1日、入館者数 1716 人)。今後、2月に「冬のやよいミュージアム&はくふだまつり」、3月に「弥生フェスティバル」を開催する予定。</p> <p>○ホームページの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新 30 回 <p>ホームページに最新情報をアップロードする</p>	<p>A</p> <p>○イベントと連携した入館料無料日の実施</p> <p>他館等との連携、夏休みや春休みでの実施等、効果的に入館料無料の日が実施されている。</p> <p>○ホームページの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新回数 <p>既に評価基準を超えている。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	

	<p>○SNS の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Facebook のフォロワー数 2000 <p>○館外における資料の活用</p> <p>○施設の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験ゾーンの活用 130 回 	<p>とともに、「カイト」と「リュウさん」による 4 コママンガやアニメを連載することで、弥生時代を楽しく学んでもらう機会を提供することができた。</p> <p>○SNS の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Facebook のフォロワー数 1,874 <p>Facebook により、催事の告知や館の活動を発信した。</p> <p>○館外における資料の活用</p> <p>8～9 月、大阪府立中央図書館で「卑弥呼の時代を描こう」展を開催した。9 月～11 月、吉野ヶ里歴史公園特別企画展「よみがえる邪馬台国」に協力し、卑弥呼像および池上曾根遺跡出土の大型井戸枠（レプリカ）等の多数の資料を出展した。今後、狭山池博物館での館外展示を予定している。</p> <p>○施設の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験ゾーンの活用 128 回 <p>小学生等を対象に、体験ゾーン「竪穴住居の発掘と復元」の利用促進に努めた。</p> <p>◎自己評価</p> <p>館内外のイベントと連携して、入館料無料の日を設け、広く府民に博物館を利用してもらう機会とした。また、ホームページを迅速に更新し、さらに Facebook での発信によって最新の情報を提供した。Facebook のフォロワー数は 1,800 を超えており、年度末には目標の 2,000 に到達する見込みである。また、昨年 12 月から開始したインスタグラムでの発信も継続しており、好評を得ている。</p>		<p>○SNS の活用</p> <p>進捗状況は 94%であり、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○館外における資料の活用</p> <p>府立図書館における展示のほか、遠方も含め他館での資料活用が行われ、当館の周知にもつながっている。</p> <p>○施設の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験ゾーンの活用 <p>進捗状況は 98%であり、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◎サービスの向上を図るための具体的手法・効果にかかる評価</p> <p>いずれも評価基準を満たす見込みであり、既に超えているものもある。評価委員会での意見を踏まえて H30 年度から開始したインスタグラムについても継続実施がなされている。</p>				
<p>(5) 新しい展示テーマ・運営手法の実行</p>	<p>◇魅力ある展示のテーマ選定、運営手法がとられているか</p> <p>○多様なニーズに応える展示の実施</p>	<p>○多様なニーズに応えるための展示</p> <p>最新のデジタル機器の活用に取り組み、IC タグをかざすだけの簡便なアクセス方法を利用した展示巡回システム、VR による遺跡情報の提供を行った。</p> <p>夏季特別展において、古事記の物語「因幡の白兎」の舞台である鳥取県東部をテーマとしたことから、漫画「ぼおるぺん古事記」（この史</p>	<p>A</p>	<p>○多様なニーズに応える展示の実施</p> <p>デジタル機器の活用等により、多様なニーズに応える常設展の観覧環境が提供されている。また、特別展においても新たな取り組みがなされている。</p>	<p>S</p>	<p>S</p>	<p>A</p>	

	<p>○楽しくわかりやすい解説の実施</p> <p>◎楽しくわかりやすい解説の実施 常設展示リニューアルに伴って増設されたデジタルサイネージを活用して、ビジュアルでわかりやすい可変展示を行った。ホームページに掲載している4コママンガをここにも掲載し、館内でもその内容を見ることができるようにした。また、従来からの音声ガイド（日本語、英語）に加えて、館キャラ「カイト」と「リュウさん」による音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語）を希望者に無料貸し出ししており、子どもだけではなく大人からも好評を得ている（音声ガイド利用回数749回）。</p> <p>◎自己評価 従来の展示手法による常設展示を補完するかたちで、最新のデジタル機器を用いた展示・解説を試みた。デジタルサイネージのマンガ、VRによる遺跡紹介、館キャラによる音声ガイド等によって、年少者にも弥生文化への興味を呼び起こすことができた。</p>		<p>○楽しくわかりやすい解説の実施 館キャラによる漫画や音声ガイド等により大人も子どもも楽しめるわかりやすい解説が提供されている。</p> <p>◎新しい展示テーマ・運営手法の実行にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、デジタル機器、館キャラ、漫画の活用に加え、特別展での展示資料の工夫等により、楽しくわかりやすい解説が提供されている。</p>				
(6)他機関等との相互協力	<p>◇提案内容に沿った相互協力がなされているか</p> <p>○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携</p>	<p>○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携</p> <p>・博物館：さかい利品の杜、小谷城郷土館、岸和田城、きしわだ自然資料館、しおんじやま古墳学習館、関西大学博物館、紀伊風土記の丘、泉南市埋蔵文化財センター等と展示、出張講座、ワークショップイベント等において連携した。（計8件）</p> <p>・民間企業：エキスポシティ エキスポラボ（株式会社スコープ）における「弥生時代を学ぼう！」、あべのハルカス近鉄本店まなぼスタジオにおける「サマーキャンパス」の各ワークショップ等に出展。日本電気計器検定所、(株)羅工房等に対して、関西文化の日ワークショップへの出展を招致。近鉄文化サロン等と出張講座事業において連携した。夏季特別展開催に関して、株式会社国際交流サービスとの連携による鳥取県下の遺跡見学ツアーを実施予定（2月）。（計6件）</p>	S	<p>○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携</p> <p>博物館、民間企業、大学、民間団体等と数多くの連携事業が実施されている。</p>	S	S	S

		<ul style="list-style-type: none"> ・大学：関西大学の動態モニタリングと展示評価調査への協力、奈良大学、近畿大学、桃山学院大学、京都市立芸術大学、大阪樟蔭女子大学、神戸女子大学の各種授業科目に対しての展示解説を実施した。奈良大学とは関西文化の日等のワークショップにおいても連携した。また、「若き考古学徒、論壇デビュー！」と題して、大阪大学、大阪市立大学等の大学・大学院生による研究発表の場を設ける予定（1、2月）。（計9件） ・民間団体等：高槻市のNPO「はにコット」と連携し、相互のワークショップイベントへの出展により協力関係を深めた。また、研究会「近畿弥生の会」との共催で、2019年度弥生時代講座「聞いてなっとく弥生の世界」を通年で開講している。（計2件） <p>◎自己評価 博物館、民間企業、大学、NPO法人、研究会等との幅広い相互協力により、展示、実習、ワークショップ、出張講座等を実施した。その結果、「産」「学」「民」との連携により、博物館の役割の一つである「府民協働」を進めることができた。</p>								
(7)施設及び資料の維持管理の内容、的確性	<p>◇施設・設備の維持・安全管理計画は適切か</p> <p>○施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の策定と適切な実施 <p>○危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの徹底・履行 ・防災訓練の実施 	<p>○施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者グループ内の緊密な情報交換のもとに策定された施設管理年間計画に従い、施設管理を行った。冷暖房機器、警報機器、昇降機等において故障が生じた場合も、近鉄ビルサービスによる迅速な確認等の対応を行った。 ・第2展示室の壁面設置モニター及び第1展示室のタッチパネルによる資料映像放映用PCに設置しているUPS（無停電電源装置）が故障したため、交換修理を行った。 ・玄関外側自動ドアの故障に際して、緊急修理を実施する予定。 <p>○危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災、その他災害の予防および危機事象発生における対応について定めた危機管理対応マニュアルを改訂した。 ・和泉市消防本部の指導による自衛消防訓練の実施を予定している（12月）。 	A	<p>○施設管理</p> <p>年間計画が策定され、計画に沿った施設管理が実施されている。また、緊急を要する災害時や機器等故障時においても、状況の速やかな把握、対応策の提案等、適切な対応がなされている。</p> <p>○危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理対応マニュアルの徹底がなされ、被災時においても適切な対応がとられている。 ・防災訓練が適切に行われている。 	A	S	A			

	<p>○定期点検の実施 ・記録簿の作成</p>	<p>○定期点検の実施 ・エレベータ保守点検（8回）、消防設備点検（1回）等、施設・設備の保守定期点検を実施し、記録簿を作成した。また、近鉄ビルサービスによる総合ビルメンテナンスの専門的見地から、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し所管課に報告した。</p> <p>◎自己評価 博物館施設、設備、館蔵資料は、指定管理者グループ内ならびに所管課との緊密な連携により適正に維持管理を行った。これにより、来館者の見学環境及び資料の保存・展示環境を良好に保つことができた。また、適切な危機管理体制によって、安全な施設管理が行えた。</p>		<p>○定期点検の実施 施設・設備の定期点検が適切に実施され、記録簿の作成がなされている。</p> <p>◎施設及び資料の維持管理の内容、的確性にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、施設の老朽化による機器の故障、台風等による災害の際にも、適切な危機管理体制により迅速な対応がとられている。</p>				
(8)府施策との整合	<p>◇提案に沿った府施策との整合が図られているか ○「こころの再生」府民運動への協力 ・「こどもファーストデイ」の実施 12回</p> <p>◇就職困難者等の雇用・就労支援の実施</p> <p>◇環境問題への取り組み状況</p>	<p>○「こころの再生」府民運動への協力 ・「こどもファーストデイ」の実施8回 毎月第3土曜日を「子どもファーストデイ」とし、同伴の保護者についても入館料無料としたほか、各種ワークショップ（米つき体験、石器体験、弓矢体験、銅鐸風鈴づくり、火おこし体験等）を実施した。</p> <p>◇知的障がい者1名の清掃業務への雇用を再委託先で実施。</p> <p>◇クールビズ（関西夏のエコスタイル）、ウォームビズの取り組みを実施し、館内温度、照明等に関して省エネルギーの意識を徹底させた。バックヤードの過剰照明の間引き、消灯を継続するとともに、第一展示室のハロゲンライトの一部をLEDライトに転換した。</p> <p>◎自己評価 「こころの再生」府民運動への協力等の提案に沿った事業の推進に努め、子どもとのコミュニケーションを深めるきっかけづくりを応援した。また、就労困難者の雇用によって、行政の福祉化の推進に寄与することができた。</p>	A	<p>◇提案に沿った府施策との整合が図られているか ○「こころの再生」府民運動への協力 ・「こどもファーストデイ」の実施 3月までに計12回の開催が予定されており、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◇就職困難者等の雇用・就労支援の実施 計画どおりの雇用がなされている。</p> <p>◇環境問題への取り組み状況 適切に実施されている。</p> <p>◎府施策との整合 すべての評価基準を満たしている。また、「こどもファーストデイ」では、月によりワークショップの内容を変え、多様な事業が実施されている。</p>	A	A	A	

さらなるサービスの向上に関する事項	(1)利用者満足度調査等	◇利用者満足度調査の実施により利用者の意見を把握し、その結果を運営に反映しているか	○利用者意見の反映事例 展示室やホールが冷えすぎているとの意見を受けて、改善のため手動による空調機の調整を行い、室温を上昇させる等の対策をとった。特別展や企画展のテーマ選択、講演会テーマの決定などにあたっては、以前の講演会で出雲をとり上げた際のアンケートで、日本海域の遺跡に関心を示すコメントがあり、そのような意見も参考にしながら、慎重に検討し決定した。また、特別展における学芸員の展示解説の好評意見を受けて、夏季特別展、秋季特別展において、学芸員の展示解説を追加実施した。 ◎自己評価 調査の結果については、幹部会議、館内会議、所管課との連絡会議で共有し、利用者から出された意見については、その内容を分析の上、必要な改善を行い、館運営に反映した。特に、展示方法、館内施設等への意見は積極的に取り入れ、良好な博物館環境の維持に努めた。	A	○利用者満足度調査の実施 利用者の意見を反映した事業実施がなされている。 ◎利用者満足度調査等 調査実施ごとに結果のまとめ・分析・共有が行われ、利用者の意見を反映した管理・運営の改善がなされている。	A	A	A	
	(2)その他創意工夫	◇その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか	◇夏季特別展開催にあたり、鳥取県埋蔵文化財センターの特別協力を得て展示や関連講演会を、また、とっとり弥生の王国、鳥取県関西本部の協力を得て関連のワークショップや鳥取県の物産販売を行った。 ◎自己評価 官民連携により魅力ある事業を展開した。	A	鳥取県の機関との連携により、利用者にとって通常は聴く機会の少ない鳥取県の文化財に関する講演会を行う等、創意工夫に富んだ取組みが実施されている。 ◎その他創意工夫にかかる評価 他機関との連携によって創意工夫に富んだ事業が実施されており、計画どおりの実施状況と評価できる。	S	S	A	

目 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	◇事業収支について、計画どおりに実施されているか	◇予算の範囲内で効果的かつ効率的な事業運営ができる事業計画を立案し、かつ、予算支出にあたっては費用対効果を勘案しつつ、比較見積りでの経費節減等を行いながら、最小経費で執行した。入館料収入についても、法人の経営目標に対する達成率 71.8%とほぼ目標通りの収入となっている。また、国際ソロプチミスト大阪―いずみより寄附金（50,000 円）を受けて図書コーナーを充実させた。 ◎自己評価 予算の範囲内で効果的な事業計画を策定し、その執行に当たっては経費節減に留意し、収入・支出のバランスの取れた事業を進めることができた。 収支計画（当初予算） 収入 大阪府委託費 115,383,000 円 入館料収入等 3,870,000 円 （※目標 3,609,000 円に対し 2,592,120 円） 計 119,253,000 円 支出 施設維持管理費 22,108,000 円 人件費他 97,145,000 円 計 119,253,000 円 よって収支のバランスがとれている。	A	経費削減に加え、外部資金の活用がなされている。 ◎収支計画の内容、適格性及び実現の程度にかかる評価 入館料収入が目標通りであるなど計画に基づいた事業実施がなされており、評価基準を満たしている。	A	A	A	
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか ◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか	◇提案に沿った人員を博物館に配置し、事業計画に沿って適切に事業を実施した。 ◇大阪府文化財センター本部における幹部会議、博物館定例会議、所管課との連絡会議（いずれも月 1 回）及び博物館内全体会議、学芸会議（各月 1 回）を開催し、事業情報の交換、入館状況、注意事項等の周知を図り、責任体制を明確にし、設置者及び法人本部からの適切な指導・管理監督体制のもとに円滑な組織運営を行った。 ◎自己評価	A	◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか 計画通りの人員が配置され、充実した事業実施がなされている。 ◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか 関係者間で日常的に密な連絡調整・情報共有がなされ、明確な管理監督・責任体制のもとで管理・運営がなされている。 ◎安定的な運営が可能となる人的能力にかか	A	A	A	

		博物館の運営を効率的に進めるために必要な職員を、博物館と本部に配置し、適正な管理監督体制・責任体制を維持しながら、適切に事業が実施できた。		る評価 必要な人員の配置による確実な管理監督体制のもと、適切な業務が実施されていることから、評価基準を満たしている。				
(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	◇法人の財務状況は適切か	<p>【大阪府文化財センター】</p> <p>大阪府内の発掘調査の受託事業や博物館の管理運営を、スリムな組織体制と経費節減の徹底により安定的に経営している。</p> <p>平成 30 年度事業収入 866,894 千円</p> <p>平成 30 年度事業活動収入 934,393 千円</p> <p>平成 30 年度法人の基本財産 116,700 千円</p> <p>平成 30 年度正味財産期末残高 1,511,083 千円</p> <p>借入金なし</p> <p>【近鉄ビルサービス】</p> <p>近鉄グループのビル物件等を中心に、地方公共団体や民間企業の施設維持管理業務等を受注し、さらに徹底したコスト削減により安定的収益を維持している。</p> <p>平成 30 年度売上額 20,855,535 千円</p> <p>平成 30 年度純利益 676,211 千円</p> <p>借入金なし</p> <p>◎自己評価</p> <p>両法人ともに経営規模・事業規模・組織規模及び財務状況において、博物館の安定経営が可能となる体制を維持した。</p>	A	<p>大阪文化財センター、近鉄ビルサービスとも、収入や売上高の著しい減少はみとめられず、借入金もない。</p> <p>また、近鉄グループホールディングス株式会社についても大きな変動はみとめられない。</p> <p>◎安定的な運営が可能となる財政的基盤にかかる評価</p> <p>グループの各構成員、構成員の親会社とも安定した経営状況にあり、評価基準を満たしている。</p>	A	A	A	

※評価の基準：評価は下記の4段階評価とする。

S：計画を上回る優良な実施状況 A：計画どおりの良好な実施状況 B：計画どおりではないが、ほぼ良好な実施状況 C：改善を要する実施状況